

## 第8回 コンビナート高度統合研究会 議事要旨

1. 日時：平成18年3月1日(水) 15:00～17:00

2. 場所：霞ヶ関ビル 33階 東海大学校友会館 朝日の間

3. 出席者：

伊丹委員長、橘川委員、長谷部委員、堤委員、小柳委員、増田委員、大野委員、原田委員、高下委員、中川委員、井内委員、箱崎委員、山根委員

4. 議題

わが国石油産業、石油化学産業の今後の展開 - 目指すべき方向と提言 -

(1) コンビナート競争力総合評価について

(2) 報告書(案)について

5. 議事概要

委員からの主な発言は、以下のとおり。

コンビナート競争力総合評価については、企業のあるべき姿という意味で地球温暖化対策を進めることは望ましいことではあるが、単純な価格競争力ということからみればマイナス要因にもなることを認識して評価することが必要である。

現実的な重要な課題として、重油の余剰対策と、プロピレンを増産することの2つがある。それに対応する技術として、重質油の分解・ガス化をかなり前倒しで実現せざるを得ない。したがって、統合した石油・石化産業が石炭、廃棄物、バイオマスにどう対応するかというのは今後の大きな課題になるだろう。今後、ダーティで安価なものをクリーンエネルギーあるいは化学原料として利用していくような技術が重要だと思う。

新しいRING事業でいろいろな取り組みがなされると思うが、今まで積み重ねてきたネットワークなどにより情報交換がどんどん密になってきているのがわかる。それらを踏まえながら、今後さらに競争条件が厳しくなることが予想されるなかで、積極的に先取りする姿勢でいろんな形のコンビナート統合に結びつけていかなければならない。

製油所同士や石化同士の連携・統合については、コスト削減するというよりむしろ、将来に向けた投資の中身や前向きな共同投資を考えることが一つのポイントになるような気がする。例えば、製油所同士の連携・統合で一番大きな国際競争力を持つのは、重質油分解であるが、1つの製油所でできないような共同投資の効果が大きいと思う。また、石化同士の連携・統合についても、石化原料の供給に対するあり方を大きく変えるのではないかと思う。今は投資マインドが上がっているので、ある意味統合のチャンスなのではないか。

エチレン生産 750 万トンのうち、内需は 500 万トン、輸出は 250 万トンである。今後、中国での新たな新プラント稼働等により競争環境が激化することが予測されているが、わが国石化産業も、このアジア市場でどう戦えるのかということを考えていかないと、国内の内需さえも一気に食われてしまうことにもなりかねない。また、中東でのエタンガス原料からのエチレン増産に対して、プロピレンとかアロマの供給原料のバランスを考えながら、石精と石化でうまく最適なバランスを取っていくことが必要ではないか。

今はエチレンで語る時代ではなく、本当に付加価値を上げるために必要な原料は何なのかを考える必要がある、その意味で石油・石化連携・統合の中で、より有効に原料を確保する必要はある。

石油・石化の連携・統合のための広域パイプラインの敷設は簡単ではないが、わが国の石油・石化産業が生き残るために必要だと考える。

本研究会の報告書に関しては、課題が明らかになったということは第一歩で、非常に素晴らしいことだと思う。それらを日本全体でやることなのか、各コンビナートのネットワークでやることなのか、各コンビナートの中でやることなのか、各会社がやることなのかといったところに分けていくということが大事なことだと思う。広域のパイプラインについても、非常にチャレンジングな課題ではあるが、このことを認識して、具体化を進めていきたい。

21世紀の日本を化学立国にしていくシナリオを描き、石油・石化連携・統合や石化同士の連携を推進することで国際競争力を強化できる可能性がある。これは、産油国等から見ても注目される仕組みになると思うので、本研究会が夢を実現するための第一歩になればよい。

今後、今回の研究会での意見などを盛り込み、報告書を最終的に完成させる。そして、この報告書をベースにして政策提言を行っていくことにしたい。

以上

## コンビナート高度統合研究会名簿

(敬称略)

### 委員長

いたみひろゆき  
伊丹 敬之

一橋大学大学院 商学研究科 教授

### 委員

きっかわたけお  
橘川 武郎

東京大学 社会科学研究所 教授

はせべしんじ  
長谷部伸治

京都大学大学院 工学研究科 化学工学専攻 教授

つつみあつし  
堤 敦司

東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 助教授

こやなぎあさむ  
小柳 治

日本政策投資銀行 総務部 審議役

ますだたかし  
増田 貴司

東レ経営研究所 産業経済調査部長

さいとうじゅん  
齋藤 旬

東京大学先端科学技術研究センター 客員研究員

株式会社ニコン コアテクノロジーセンター 主幹研究員

おおのひろし  
大野 博

新日本石油精製株式会社 代表取締役 副社長

はらだまさお  
原田 征夫

出光興産株式会社 代表取締役 副社長

こうげえつじろう  
高下悦仁郎

三菱化学株式会社 常務執行役員〔石化セグメント分担(石化基礎分野)〕

なかがわじゅんいち  
中川 淳一

三井化学株式会社 執行役員〔市原工場長〕

いうちけんすけ  
井内 謙輔

丸善石油化学株式会社 取締役 技術開発部長

はこざきけいいち  
箱崎 慶一

経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部 石油精製備蓄課長

やまねけい  
山根 啓

経済産業省製造産業局 化学課長

計 14 名